六月

飢人救恤養生所ホ之部

国立公文書館
National Archives of Japan

貞享四卯年正月

元

惣而人宿又は牛馬宿之儀生類憐之
儀ニ付而不届之振舞相聞ル右
不届之族ニ対ス急度可仰付
密ニ之ヶ様成儀ニ付後人ハ右ニ同類
毎年ニ申渡ス其科を申渡ス法度之人可
被仰付

正月

以上元

今度書付出ル上ハ、其方ハ如何様ニ成共、
如何様ニ可申所ハ、其方ハ地方ハ法代官ニ任ス、
言未仔細申聞方ハ地頭方ニ相渡ス事ニ候

正月

元禄十一寅年九月十日

一 今度火事ニ付自然及盛死ス者ニ成ル
所ニ名主百姓ハ素被吟味ス所ニ何人ニ成ル
今明日中ニ書付ニ而ハ出ス退ル者ハ
同ク合中ニ申聞ス可ク右ニ自然ニ成ル所ハ元所ニ帰ス

九月

同十六年年二月

晃

近年市ニ者及国家ニ非ス者共ハ
ニ一入ニ成ル様ニ就テハ
江戸 作付ニ申何様中合ニ金成ル丹後ニ可ク
相伺ハン上

右ニ書付寺社ハ大目付所ニ
長崎ハ京都所ニ
中渡ス光中列ス

但ニ国ハ何様ニ成ル時ニ

享保六丑年六月

一 右林見宜来ル廿八日ニ時ハ於神田橋外御用屋敷休憩所宅醫学入門ニ諸侯ニ出る事

醫師八兵衛ニ取事

六月

同月

一 右林見宜ニ療治新法者ニ志ス新法見宜ニ伝授義ニ付療治度志ス相新法ニ

町中ニ遣ス一日間ハ上

六月

同年六月

一 南方ニ渡世義仕法ハ以後新法ニ無之ハ

手當日より一日ニ遣ス分ハ及消命行ニ志

是以後書方一日ハ

六月

同月

一 右林見宜ニ御用相談帳ニ付先書ニ渡ス

ニ食屋敷ニ諸侯ニ渡町内醫師ニ新法

一日ハ知ル事

六月

享保六辛丑年九月

町々江相廻し親書子又ハ自分義等 相伝
指義不申及沿命仕候

一 先達被仰渡候味書上ル町中困窮者成ル事ハ
無之ヤ之七日ニ付被指茶ニ付右同断
之ものハ有之哉吟味ニ仰渡候書上ル旨
分上九ツ半ニ仕候又ハ他国ニ出ル者ハ又

一 仰渡候事
右之通月番ハ名主ハ人組中ニ合相乗
被吟味書面ニ連ル者ハ有之哉可仰聞
若シ於無服ハ相知ル者ハ一家親族
九月

同七寅年正月

一 町々ニ而困窮ル者ハ後ル行ル人ニ連ル物一日ニ
送リ米及沿命仕ル者ハ去ル六月相解
ル連町々被仰渡候ハハ困窮ル
書付ニ而ハ無有之ニ書付有之ル事

被為取来ル十七日迄落合村新田江可差越候以上

正月

享保七寅年十二月

一 小石川伝通院前ニ罷在候小川笙船と申者極貧之
病人之為ニ施薬院立候様ニと 仰付候様ニと去月訴状箱江
書付差上候ニ付御吟味之上今度
小石川於御薬園病人養生所被 仰付候間
極貧之病人薬も治療も難成もの或ハ独身ニ而
看病人無之又ハ妻子有之候而も看病難成者共ハ
不成者共ハ右養生所江相越役人江申達療治請
可申候尤療治之内ハ諸事御構無之候様ニ相達候
衣類夜具食事等迄被下候事ニ付不自由ニ無之様ニ極小
并
仰付候ニ付望ミ候者ハ不及申ニ其外ハ格別出入候就
成病人ハ家主五人組親類共店請又ハ地主之内或ハ
相頼諸役所江可願出候 吟味之上養生所判形を以
只今迄之通 七時迄ニ養生所ニ而相願候様
役人共差中付可申事

一 養生所ニ而若年之者以後療治請候者之内若ハ
手前ニ而療治致度者ハ 判形を持参り
養生所ニ而其役人江相達療治請候以後又

役人に手形中付遣ひ事

但右之通相違ひ出生届出ル利潤

是又四ツ半より七ツ時之間一相済事

右之通相違ひ出生届出ル癌症信度者之儀ハ

出生届出ル二ツ之義ハ癌病人ハ尚分役世話ハ成と

六ツ度ハ不海外ハ者ハ内ハ出産届出ル遠方ハ知

其名之者ハ之人組ハ為致度

十二月

享保八卯年正月

一於町中煙草之者之事ハ無之尚自と

送り兼度渡命ニ而ハ祈者之ハ御番所

帳面ニ記置ニ而ハ行之ハ少事ニ無之度者度

ハ書子ハ法御取ニ無事

但帳面ハ附無之後分上ハ無之又ハ紙ハ

宗旨ハ宗ハ公ニ無之者ハ之ハ後御帳面消ル

中事

右之通相違ハ名主家之人組中合相ハ行之儀

書面之通ハ之ハ之ハ之ハ御番所ハ相知ル

正月

享保八卯年二月

一小石川養生所ニ而一生病人成先生ニ而ハ肺病人
ニ者ハ一ツ宛義有相福ハ拙者自今ニ肺病人
ニ成ル者ハ又小児ニ成ル者ハ極ル不
業義治業ハ拙者ハ吟味ニ上養生所ニ
ニ而ハ有相分ル事

二月

同年七月

一先生ニ而相福ハ小石川養生所ニ拙者病人
治療ハ不業ハ病人ハ養生所ニ

通ル病人ハ支配所ニ拙者ハ方ニ吟味
病人ハ遠ク成ル事ハ又ハ
支配所ニ詰ル事ハ大切ニ存ル彼ハ世話ニ
ハ成ル六ツ成ル新人ハ家ニ有ル事
ハ不ル事ハ拙者ハ風邪ハ俗ニ向後
支配所ニ相勤ル成ル用ル家ニ不ル事
ハ拙者ハ一人病人小相添有ル又ハ
有ル事ハ月行事判断ハ養生所ニ
拙者ハ役人ハ俗ニ長屋ニ入養生所ニ
ハ有ル事ハ切ル有ル役吟味病人ハ養生所

一去年より中道和尚眼病に付法醫に流れ
に　作村毎日相詰る療治をする　地備
庵信に去る廿五日入戸関に以上

七月

享保十己年十月

今度聖堂前師に公儀中者花女を実庵
以来中庵に付迷者に付上に書状
亦法月村に相達に右花女所に相渡
病者に流に書に書内に菓に向後書非人
外右に病人に吟味に右に書生別に

生に療治いたす世話に吟味可
中間に有法月村に渡に書に

十月

同十三申年十二月

元祐寺前小柳町
木村春徳

一沼町中市に知迷当十二月より来月十二月迄
春徳宅に病人施業に重病に那来
方に生徒に義拙子に下に右に町中に可
中略

十二月

享保十四酉年二月

中渡

吳宮丹　通中敬

右之業申之者共丹州相方ニ不義可相求以
此分町中ニ而国分町ニ居候相ハ年番
屋中ニ而下法ハ以上

二月

同十七子年　巳月

元

岩手藩藩士代官訓
武州多摩郡押立村
平右衛門

日野小右衛門代官
国分寺郡中野村
源　助

薬性院領
国分寺郡柳沢村
弥兵衛

右三人之者江戸屋敷宿ニ未定橋と申取高象潟吳
白平洞賣仏ニ成願之通中分ニ成切結成
之疱瘡麻疹離病ニ付紙屋
者共右之取ニ来調下ル

右之通ニ来調下ル

右之通町中ニ觸知ス也

四月

享保十八丑年正月

一今度町々ニ日を限り薬ハ飢人ニ与せハ為ノ
右之先ニ店薬相渡ス筈ニ成有合ハ名ハ為
家主ヨリ虚妄ニ成ル元薬又渡ス
飢人多クハ其所ニ早速ニ申出
右之通町中ニ觸知ス也

正月

同年二月

一ハ茂町々困窮ニ成ル百店借地借渡世難儀
ニ者八ニ地之家主ヨリ地代店賃ハ半分一度
用捨ハ茂ニ中ニ之高渡世成ル様ニ為
困窮人同前ニ中ニ地代店賃不納ニ者ハ
吟味ニ上ル度ニ申付ル

二月

同二十卯年四月

光

鶴屋 弟

右之中風并疫病ニ用ハ茂ニ高ハ度丹羽

正伯方ニ而調合被仕候者ハ先日家ニ而
代金百疋ニ而買ニ者ハ先筆地備前町前ニ舟有
正伯宅ニ而我相調百疋
右之通町中ニ而入金ニ而相調以上

四月

元文元辰年十月

中渡覚

朝鮮人参ニ付覚書

右之病用ニ付人参購用仕候ニ付度々相調
我様成之右人参ニ付購用被仕候ニ付

頼ニ付ニ付当病人ニ好ミの人参ニ付
名ニ成ニ付人参ニ付添下ニ而当番所ニ而ニ付
之ニ付度々ハ人参ニ付
当ニ付ニ付人参ニ付ニ付可被
中間以上

十月

同二巳年四月

一 家洞白牛洞茶屋、仏ノ山ニ先年ニ而ニ付
渡橋ニ付今度渡業法蔵寺ニ而ニ付
義地ニ付ニ付ニ付ニ付ニ付ニ付

四月

元文四未年二月

免脇代生舟

一切諸産に接する業に付薬元瑞見に調合
仕候付妻産婦なし 今年懐妊に而作候
仕度旨 御用見習に成る瑞見
方に取合仕候に成り調合し御薬数少に付
一等に八不足に付懐妊に而作候

同年六月

免脇代生舟

御用見習に而薬元瑞見完に而作候
御薬に付に成る 右に付支配 御用見習に成
難産病人に成る出産に成る 此支配迄御薬
出用に付 相渡に成る 諸れ産組支配に付薬
中関産難産に成る中 御薬に成る相渡
組支配人数多に而 中に成る
出用に付瑞見に成る

六月

同文中年正月

疱瘡に付法湯二回九に成る布衣

以上　御用見分之面々差出候ハ
河内国仙寿院栗本瑞見方江相願申候
ハ仕法勤ハ差ハ於　御城仙寿院瑞見へ
申達ハ仕候
但し痘瘡疱瘡疫子共大勢ニ御出来
候節疫子ハ子供ハ子供ハ成丈人方江
申達ハ相願ハ
右之趣向ハ寛保元年十月
寛保元酉年十月
覚

武州多摩郡淀橋
同国同郡中野村
名主　清
源　助

右之者ハ家永ク御備中守様御村
役奉ハ切紙義ニ痘瘡麻疹癒疫
難程ク業ハ差出ス者ハ調ハ申ハ
右之通ハ中ハ解知致ス也
十月